

事業名	新潟市生涯学習ボランティアバンク
事業の特徴	ボランティアの養成やフォローアップの講座の開設、登録、派遣等のコーディネートなど人材バンクの運営

実施機関名	新潟市生涯学習センター
連絡先	〒951-8055 新潟県新潟市中央区礎町通3ノ町2086 TEL 025-224-2088 FAX 025-223-4572 URL <a href="http://www.city.niigata.jp/info/crosspal/senta-.html">http://www.city.niigata.jp/info/crosspal/senta-.html</a>
事業規模	市区町村
事業主体	社会教育施設
事業のテーマ分野	総合的な学習機会の提供（人材バンク）

## 1 事業の概要

新潟市生涯学習ボランティアバンク制度は平成19年2月にスタートした。市主催の生涯学習ボランティア養成講座等を修了した方や、市内で生涯学習活動や市民団体活動等をしている団体・グループがボランティア登録をしており、市民や公共機関等が講演会や講座などの学習活動を行う際の指導者・助言者・学習支援者として広く活躍している。

## 2 事業の趣旨、目的

市民の自発的な学習活動の成果が社会的活動に生かされ、また新たな学習へと結びつく循環型生涯学習社会を望む声は強い。この声に応えるため、新潟市では早くから公民館などの社会教育施設等において市民一人一人の「自ら学び、自らを育てる自発的な学習活動」を支援してきた。平成17年には生涯にわたる学習活動を支援する学びの拠点施設として生涯学習センターを整備し、生涯学習ボランティア養成講座等を行ってきた。

数々の養成講座等を実施するなかで、多くの受講生から聞こえてきたのは「学んだものをどこで活かせばよいのか、その場が探せない」という課題であった。生涯学習ボランティアの“養成”をするばかりでなく、その学びを活かすべく、ボランティアとして活躍できる具体的かつ十分な数の「場」の確保を求められるようになってきたのである。

そこで、平成19年2月「生涯学習に関する豊かな知識や経験、優れた技能等を有する人材やグループの有効活用を図り、市民の学習活動の成果を地域社会に還元する循環型生涯学習社会をつくる」ことを目的として「新潟市生涯学習ボランティアバンク」をスタートさせた。

### 3 事業の内容

#### （1）学習の内容

活動するボランティアは「個人」または「団体」での登録制をとっている。「個人」とは市主催の生涯学習ボランティア養成講座等を修了した方、「団体」は市内で生涯学習活動や市民団体活動等をしている団体やグループを対象としている。

活動は、ボランティア派遣依頼を受けた先で行う「派遣型ボランティア」が主となっている。依頼主は市内在住の方や市内に活動拠点がある団体・グループまたは公共機関等で、依頼主から講座・講演会等におけるボランティア派遣依頼を受けると、事務局である生涯学習センターが登録ボランティアの中から活動可能な方をコーディネートし派遣する形をとっている。

過去の依頼主は保育園や小・中学校などの公共機関、PTA、地域の子ども会、老人福祉施設等がある。市内全域から依頼を受けるため活動範囲も広域となっており、ボランティア活動をする方・利用する方双方が地域を越えた新しい交流を図る機会となっている。

#### （2）学習成果を活用したボランティア活動等の内容及び推進の方法

##### <活動事例>

##### ①学校で

通常の学校教育では学ぶことができない様々な分野の講師を中学校へ招き、ボランティアバンク登録者が大活躍をした。講座参加者は中学生と地域に住む一般の方で、中学校からは「とにかく学校教育にはない分野の講師を派遣してほしい」という依頼を受けていたことから、竹とんぼ・紙折ひこうきなどの昔のおもちゃ作り指導や、静電気を利用した科学実験、布ぞうり作り、紙芝居作り、初歩ドイツ語、フラダンス、法律講座、インディアカ、藍染などの指導ができるボランティアを派遣した。

それぞれの講座には数十名ずつ参加者がいるため個人登録のボランティア1名では指導が難しいところもあったが、そのような講座の場合には他の個人登録者数名をサポート役にしたグループになってもらい指導を行うようにした。

「今の中学生」への指導を通じ、ボランティア登録者の更なる学習意欲を沸き立たせる刺激を受けることができたほか、今後、学校という場でボランティア活動を行う際に留意すべき点を学ぶ非常によい機会となった。

##### ②地域で

家に閉じこもりがちな高齢者や障がい者、子育て中の親子など誰もが気軽に集うことができる「地域の茶の間」という居場所事業がある（社会福祉協議会が実施）。ここにもボランティアバンクから折り紙やマジック指導をするボランティアを派遣した。

ここでの真の目的は地域における世代を超えた交流である。このような地域活動の場において

ボランティアバンク登録者の多彩な技は様々な世代を「つなげる」ための効果的なツールとして活用される。それだけでなくボランティア自身も一市民として、地域の茶の間に集う人たちと心の通った交流ができ、依頼する側、派遣される側がともに充実した時間を持つことができている。

### （3）推進体制等の仕組み

新潟市生涯学習センターが事務局となり、ボランティア登録業務、利用受付、ボランティアのコーディネート業務を行うほか、生涯学習ボランティアフォローアップ講座等の研修等も企画し、ボランティア登録者の研さんの場づくりも行っている。

その他、必要に応じて各地区公民館や行政機関との連携を図っている。

## 4 成果と今後の取組

### 活動先の確保

「人材バンク」をもつ市町村の多くが“『登録』しただけで、実際の活動先が無い”という共通した課題にぶつかり、果ては制度を衰退させてしまっているとよく聞く。新潟市生涯学習ボランティアバンクの平成21年度の登録数は個人登録39名、団体登録35グループである（平成22年3月末日現在）。この登録者すべてに対して十分かつ充実した活動の場が提供できることを目標に、これまで以上にボランティアバンク利用に関する広報に力を入れる必要がある。特に新潟市では「学社民の融合」を教育の柱の一つに挙げていることから、学校関係者との協力・連携を図り、教育活動現場においてボランティアの豊かな知識や経験、優れた技能等を地域や子どもたちに還元していけるよう力を入れていきたい。

### 活動時の負担軽減

活動するボランティアが精力的に、また日常的にボランティア活動に親しめるよう活動場所までの移動距離や移動時間といった“負担”を少なくしていくことも必要である。

現在はボランティア登録受付やコーディネート業務を生涯学習センター1箇所で行い、またボランティアの活動範囲も全市内すべてと非常に広範囲となっている。そこで、今後は登録や派遣受付、コーディネートなどを区単位でできるよう、また依頼主へはもちろん、活動するボランティアに対してもきめこまやかに対応ができるような体制づくりについて協議していきたいと思う。

【執筆者の職・氏名】新潟市教育委員会生涯学習センター 主事 金子 容子